

馬上偶成（高杉晋作）

険に 臨み 危うきに 臨んで 豈 衆を 恃まんや

单身 孤馬 乱丸の 中

沙辺 甲を 枕にす 腥風の 夕べ

幽夢 悠々 海東に 到る

臨險臨危堂恃衆 單身孤馬亂丸中  
沙邊枕甲腥風夕 幽夢悠悠到海東

解説 王政復古の急先鋒であつた長州藩と幕府は対立し、幕府は長州征伐を企てた。長州では直ちに出兵し、その先鋒として高杉は奇兵隊を組織して敵陣に突入したその時の作。

語釈 ※馬上偶成＝馬上で詩歌などが、ふとでき上がること。  
※険＝困難が多いこと。※臨＝その場所に行く。※衆＝多数の人。大勢の人。※恃＝力にして頼りとする。たのむ。※孤馬＝一騎のみで。※乱丸＝乱れ飛ぶ弾丸。※砂辺＝砂浜。※腸風＝血なまぐさい風。※幽夢＝かすかに記憶され夢。※海東＝東の方の海。転じて江戸幕府をいう。

通釈 幕府は大軍を動員し、長州征伐の軍を進めた。長州藩は全面降伏し、国家老らの切腹により藩の存続を図った。この時、高杉率いる奇兵隊はこれを不服として幕府軍と戦つた。危険の場に臨んだ時どうして衆の力など頼っていられようか。一人だけで馬に乗って乱れ飛ぶ弾丸の中に突入する。ふと、砂浜で兜を枕にして横になって、血腥い風の中で一眠りした時、悠々として江戸幕府を攻めている夢を見た。